

建設作業者との対比からみた林業 作業者の意識と雇用促進の課題

古川営林署 池本森林事務所 森林官 谷 澤 功 志

1 はじめに

長期にわたり、林業界は後継者不足で若者がほとんどいないと言われている。それに伴い今日林業作業者、林業関係組織に関する多数の調査報告がされているが、統計的なものばかりで、作業者自身の声は聞こえてこない。

林業作業は、本当に魅力のない仕事なのであろうか。又、現場で働く作業者は林業作業をどう思っているのかを、林業と同じように3Kともいわれながら多くの若者が就労している建設業界と比較し、林業作業者意識、今後の雇用促進課題を浮き上がらせ、対策を模索した。

2 調査内容

古川営林署管内の4森林組合と造林及び生産事業体5社、林業建設業界6社に、作業者直接アンケートを含む調査を依頼し、作業者の就労の現状、作業条件、作業に対する意識、今後の課題等について取りまとめを行い分析、検討した。

3 調査結果と分析

林業作業者172名、建設作業者124名について分析した。

(1) 作業者の年齢分布 (表-1)

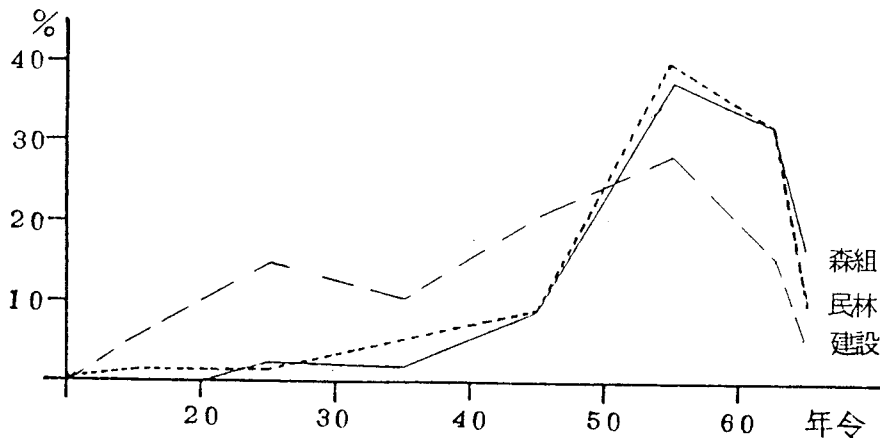


表1のように民間林業作業員（以降 民林者）と森林組合作業員（以降 森組者）は、同じような分布となり、50才以上の作業員割合は民間林業、森林組合ともにそれぞれ全体の86%であり極めて高齢化していた。一方建設の50才以上の作業員割合は50%であり若さを感じた。

(2) 現在の仕事に対する満足度（表-2）

区分	質問	大満足	満足	少し不満	不満
民	林	2%	27%	68%	3%
森	組	6%	72%	16%	6%
建	設	6%	64%	24%	6%

満足している回答が一番多かったのが、森組者で全作業員の約80%の人が満足していた。建設者も70%の人が満足しているのに比べ民林者は、30%程の人しか満足していなかった。同じ林業作業でありながら、民林と森組との満足度には大きな差があった。

(3) 現作業に対する自己評価（表-3）

区分	質問	きつい	危険度が高い	自分に合っている
民	林	47%	88%	50%
森	組	26%	26%	45%
建	設	10%	13%	14%

自分の仕事に大してどのように感じているかには民林者のきつい、危険の回答が突出しており、特に危険については90%近くが感じており、同じ林業作業の森組者の造林部門が多い事を考慮してもあまりに高い結果となった。一方仕事内容が合っていると答えた人が林業が多数いた。

(4) 改善要望項目（表-4）

区分	順位	1	2	3
民	林	安全性の向上	各種保険の充実	給料
森	組	給料	作業員の増員	職場環境
建	設	給料	作業員の増員	休日の増加

民林者の職場現状が特徴づけられる結果となった。何が良くなればよいかの間に、森組者、建設者共に給料アップが1位であったが、民林者は作業の安全性の向上、2位に安心して働けるよう各種保険の充実をあげた。この要望は民林者のほとんどの人が仕事内容が危険（表-3）と答えていた事からも切実なものであると考える。

(5) 現在の仕事を選んだ理由（表-5）

区分	順位	1	2	3
民	林	自然が好き	仕事が合っている	高給
森	組	自然が好き	休みやすい	仕事が合っている
建	設	仕事が合っている	休みやすい	他になかった

(6) 現在の仕事での満足点（表-6）

区分	順位	1	2	3
民	林	変化に富む	会社自体	仲間
森	組	変化に富む	家から近い	仲間
建	設	家から近い	変化に富む	仲間

森組者、建設者の回答から家から近い事も重要な職場選択要因となりうることがうかがえる。

(7) 林業、建設お互いの作業内容比較意識（表-7）

質問	順位	民	林	森	組	建	設
建設と比べて林業の方が	きつ	95%		77%		60%	
	危険	68%		39%		62%	
	やりがいが多い	85%		38%		18%	
	高給	90%		42%		28%	
	労働時間が長い	92%		3%		37%	
	休日が多い	9%		14%		9%	
総合的にどちらが良いか	林業	68%		林業	60%	林業	17%
	建設	28%		建設	5%	建設	45%

5 調査を終えて

建設業界も林業界と同じく3Kだと思い調査してきたが、実際は3Kを脱出しており、作業、経営者側ともにそのように感じてはいなかった。建設業界でも以前は、若者の入社が少なかったが休日の制度化、作業の安定化等の努力を続け、現在は就労者のみを考えるだけでなくファミリーサービス、レクリエーションの充実にも力を入れており、退職金についても若者が将来受け取る額は4千万円以上という会社まであった。

民間林業界は、作業員からも出されたように危険な作業内容にもかかわらずとても安心して働ける保障は整っていなかった。又、企業の将来像も稀薄であり作業員確保に対する考え方も福利厚生の充実より長時間作業させてでも高給の支払いが一番との考え方で新たな作業員をのぞんでいる割りには、積極的な募集活動をしておらず、林業界の安定的向上をめざす将来への施策はほとんど見られなかった。

しかし、これは事業者だけが悪いと一方的に片づけることはできず、収益関係が一番関連してくるため、現状の木材価格では困難かつ不透明であるため、魅力ある林業界となる手助けには、新たな補助金等何らかの資金等の援助が不可欠と考える。

また、森林組合、建設作業員とともに職場の満足理由に自宅から近いことを挙げている結果からも、まず地元山間町村の活性化に林業関係者も積極的に参画し、人口の増加を図りその中で林業作業を具体的にPRすれば自然の中で、変化に富み、体を動かせる林業作業に就こうという人は、多数出ると予想される。このためには、常に安心して働ける作業環境整備が最優先である。今後林業作業従事者が誇りを持って働ける環境作りのために、私達は3K脱出を目指しさらなる努力の必要性を感じる調査結果集約となった。

今回の調査は、狭い地域での調査でありアンケートの内容や分析も充分なものではなかったが、作業員の思いを垣間見たように思った。